

神戸大学国際人間科学部グローバル文化学科・国際文化研究推進センター主催
国際シンポジウム

無形文化遺産の保存と活用

ーグローバル化の中でローカルなものの価値を問い直すー



日時: 2018年12月2日(日) 13:30~17:30(受付13:00~)

場所: 神戸大学国際文化研究科大会議室(鶴甲第一キャンパスE棟4階)

(JR六甲道駅・阪急六甲駅より市バス16系統「神大国際文化研究科前」下車)

2003年、ユネスコ総会で無形文化遺産保護条約が採択されて15年が経過した。従来の(有形の)世界遺産と比べ、無形文化遺産は非西洋圏にも豊富に存在し、とりわけ日本の得意分野となってきた。近年の文化財保護法の改定によって、無形文化遺産の保存のみならず、その活用が課題となっている。本シンポジウムでは、グローバル文化学科の特性を生かし、無形文化遺産の保存と活用をめぐる討議を通じて、グローバル化の中でのローカルなものの価値を問い直す。

講演者:

国末憲人(朝日新聞GLOBE編集長)

アンネグレート・ベルクマン(ベルリン自由大学准教授)

窪田幸子(神戸大学大学院国際文化研究科教授)

梅屋潔(神戸大学大学院国際文化研究科教授)

モデレーター:

藤野一夫(神戸大学大学院国際文化研究科教授)



PROGRAMME

講演1:国末憲人

「ユネスコの無形文化遺産とは何か。世界の事例から考える」

講演2:アンネグレート・ベルクマン

「歌舞伎における一つの矛盾？—商業主義的につくられた日本の無形文化遺産」

講演3:窪田幸子

「アボリジニ・アートの発展とオーストラリア観光」

講演4:梅屋潔

「無形民俗文化財の被災とコミュニティ再生—宮城県の事例から」

パネルディスカッション:

「無形文化遺産の保存と活用—グローバル化の中でローカルなもの価値を問い直す」

PROFILE

国末憲人 (朝日新聞GLOBE編集長)

1987年より朝日新聞社に勤務。パリ支局長、論説委員を経てGLOBE編集長、青山学院大学フランス文学科非常勤講師。著書に『イラク戦争の深淵』『ユネスコ「無形文化遺産」』『ポピュリズムと欧州動乱』など。



アンネグレート・ベルクマン (ベルリン自由大学准教授)

早稲田大学の留学を含めて日本滞在20年間。専攻は日本演劇と興行組織、日本美術史、日本文化政策。近著*Transcultural Intertwinements in East Asian Art and Culture, 1920s-1950s* (編)



窪田幸子 (神戸大学大学院国際文化学研究科教授)

2009年より神戸大学に勤務。専攻は文化人類学、先住民研究。オーストラリアアボリジニの研究を継続して行っている。著書に『アボリジニ社会のジェンダー人類学』『「先住民」とはだれか』など。



梅屋潔 (神戸大学大学院国際文化学研究科教授)

縁あって東日本大震災で被災した無形民俗文化の復興を見まもる。専攻は、社会人類学、民俗学、宗教学。『福音を説くウィッチ』『無形文化が被災するということ』など。



藤野一夫 (神戸大学大学院国際文化学研究科教授)

1989年より神戸大学に勤務。専攻はドイツ思想、音楽文化論、文化政策学、アートマネジメント。日経新聞等の音楽批評を担当。近著に『地域主権の国 ドイツの文化政策』など。



ご予約: ①氏名②ご所属③メールアドレス④懇親会のご出欠(一般5000円、学生2000円)をご記載のうえ以下の宛先にお申し込みください。

※障害等で当日特別な配慮を必要とされる方は11月20日(火)までにお知らせください。

締切: 11月26日(月) 参加費: 無料 定員: 100名

お申込み・お問い合わせ: 神戸大学国際文化学研究推進センター (promis.heritage1202@gmail.com)

TEL・FAX: 078-803-7494 Address: 神戸市灘区鶴甲1-2-1

主催: 神戸大学国際人間科学部グローバル文化学科、神戸大学国際文化学研究推進センター